

## 令和元年度 第49回関東中学校バスケットボール大会 派遣報告書

1. 日程:2019年8月6日(火)～8日(木)
2. 場所:埼玉県 ①深谷市総合体育館ビクターホール ②桶川サンアリーナ
3. スケジュール・内容

○ 8月6日(火)1日目 &lt;審判会議、審判ミーティング、大会1日目&gt;

時間	研修名および講師
10:30～	審判会議
10:40～	審判ミーティング ①「ガイドライン追加項目、新ルールについて」 村上 恵美氏 ②「マンツーマンペナルティの対応」 加藤 暁生氏 ③「3PO Basic」 渡邊 整氏
13:30～	競技開始
内容	
<p><u>ミーティング① 「ガイドライン追加項目、新ルールについて」 村上 恵美氏</u></p> <p>まず初めに、「ファウルとは何か?」というところから始まった。ふれあいに対するファウル(NF/UF)、振る舞いに対するファウル(TF)、特に悪質なファウル(DQ)といったものを事実、責任、影響の観点からマージナルなのか、イリーガルなのか、あるいはノーコールなのかを判断していくことが大切である。</p> <p>新ルールについてはスローイン、ドリブル、24秒ルール、ダブルファウル、テクニカルファウルについての再確認をおこなった。その内の24秒ルールについて、具体的なケーススタディをおこなった。</p>	
<p><u>ミーティング② 「マンツーマンペナルティの対応」 加藤 暁生氏</u></p> <p>今回は中学生の大会のため、試合中TOの後ろに「マンツーマンコミッショナー(以下、MC)」がつき、ゲームを進めていく。MCが黄色旗をあげる→試合は継続、赤旗をあげる→1回目警告、2回目TF(マンツーマンペナルティによる挟み込みのフリースロー)CCが両コーチを集め、MCに説明をしてもらう。その際、U1とU2はコート上にいるプレイヤーを把握する。スコアには「M」を記入し、「M」2つで退場となる。よって、審判の対応としては必要に応じてMCと連携をとり、スムーズに運営をしていくことが重要である。</p>	
<p><u>ミーティング③ 「3PO Basic」 渡邊 整氏</u></p> <p>今大会から全試合3POの実施ということで、「プライマリとメカニクスの理解」を中心にミーティングをおこなった。その中で、自然に見えるものを判定していくこと、リードが積極的に判定に参加していくことがポイントである。またクルー内でのコミュニケーション(OOB、3or2、EOQ・EOG、クロックコントロールなど)を取り続けて最後まで協力をしあい、正しい道へと導いていく。また、POC(判定の根拠)にこだわりを持ち、レフェリングをすることを重要視する、プレゼンテーションの工夫やインテグリティ(一般の方々にとって見苦しい振る舞いをなくすこと)についても強い意識を持ちコートに立つようお話いただいた。</p>	

## 《担当ゲーム》

時間	女子1回戦 第1試合(13:30～)		
対戦カード	明見(山梨) 57 - 68 埼玉栄(埼玉)		
担当審判	CC. 五十嵐 菜美(東京 A級)	U1. 佐藤 圭氏(群馬 B級)	U2. 吉田 一貴氏(神奈川 B級)

内容	<p>審判主任:丸山 淳氏(山梨)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉栄のオフェンスの手の使い方を知っているかどうか</li> <li>・試合中の違和感を周りが感じてしまうような瞬間をいかに審判が早く感じて正していくかが重要である</li> <li>・クルーチーフとして試合全体を把握していることを判定やプレゼンテーションで伝える</li> </ul>
----	---

○ 8月7日(水) 大会2日目

時間	女子2回戦 第4試合(13:30~)		
対戦カード	松伏(埼玉) 74-50 一条(栃木)		
担当審判	CC. 丸山 淳氏(山梨 A級)	U1. 五十嵐 菜美(東京 A級)	U2. 吉田 和樹氏(群馬 B級)
内容	<p>審判主任:真榮喜 工氏(埼玉)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クローズダウンポジションの使い方の工夫(ウィークサイドから来るドライブに対するディフェンスの手を見えるポジション)→1歩内側に入る</li> <li>・ショットクロックの訂正をしたことは良いが、TOは中学生なので同じミス回避できた時に声をかけてあげるなどのコミュニケーションを取ってあげるとなお良い</li> <li>・スローイン前、フリースロー前、タイムアウト明け等、声を使って始めることをもっと積極的におこなう</li> </ul>		

○ 8月8日(木) 大会最終日

時間	女子準決勝 第2試合(10:50~)		
対戦カード	陽南(栃木) 77-34 昭和学院(千葉)		
担当審判	CC. 星野 由貴氏(群馬 S級)	U1. 小澤 朋克氏(群馬 A級)	U2. 五十嵐 菜美(東京 A級)
内容	<p>グループミーティング(中澤 美保子氏(神奈川)、望月 直幸氏(東京)、鈴木 孝一氏(埼玉)、丸山 淳氏(群馬)、埼玉県内審判員の皆様)</p> <p>審判主任:久保 あしみ氏(千葉)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クルー内での個人ファウル共有(タイムアウト時に話すことや、ツーモア、ネクストボーナスの確認)を常におこなう</li> <li>・セカンダリーがコールする時間帯が連続してあった際、それに気づいていたか</li> <li>・スキルのあるチームに対してどこまでやらせてあげるかをクルー内で一貫させる(同じものでもコールしたり、しなかったりすることは避ける)</li> </ul>		

4. 感想

今回、初めて関東中学派遣をいただき、またA級として、2泊審判員として初の関東大会ということもあり、新たな気持ちで臨み参加させていただきました。

担当させていただいた試合は全試合女子のゲームでした。中学生のゲームとはいえ、非常にレベルの高いチームによる大会でした。また今回クルーチーフとしてやらせていただく試合もあり、ゲーム全体を感じながらスムーズに運営をし、収めていかなければならない責任を肌で感じる経験もさせていただきました。しかし私はまだまだそういった技量が乏しく、上手くないことが多くあり、沢山の悔しさが残っております。ただその中でも、関東審判員の方々から新たな刺激をいただきました。この経験を次へと生かしレベルアップしていきます。

最後に、今大会で開催県となりました、埼玉県バスケットボール協会の方々には大変お世話になり、深く感謝致します。また、今大会の派遣をしてくださりました平原委員長をはじめ、日頃よりご指導いただいております東京都の皆様にも感謝申し上げます。